

[制作記録]

乾漆技法による人間表現の探究： 《BODY 21-1》制作を終えて

Study on Human Expression in «BODY21-1» Using by Dry Lacquer Technique

青木 千絵
AOKI Chie



図 1：《BODY 21-1》(2021年)

1. はじめに

麻布や和紙を何枚も漆で張り重ねることで造形を行う「乾漆技法」は7世紀頃に中国から伝来した漆工技法であり、軽量で自由度の高い造形を可能にする技法である。古来日本では、興福寺の阿修羅像など多くの仏像制作にも用いられ、張り重ねによって生み出される独特の柔らかな表現に魅力がある。

本研究では、乾漆技法が持つ造形性と柔らかな特徴を生かした造形表現として、現代を生きる人間像をテーマに新たな表現手段の探究を続けている。本項では、図1に示す最新作である《BODY21-1》の制作過程とその成果について報告する。



図2：《BODY 18-4》(2018年)

2. 制作の経緯

「壁面展示ができる作品は制作できないか」というキュレーターからの要望が、《BODY21-1》(以下、本作品)制作の直接のきっかけとなった。こうした制約は作品制作において新たな気付きや工夫をもたらしてくれる。今回も上記依頼を受けてまず閃いたのが、図2に示す以前制作した《BODY 18-4》を上から見た時の気付きであった。私の作品はおおよそ実寸大の人のサイズのため、制作した作品を鑑賞者が上から眺めることはなかなか難しいが、《BODY 18-4》を上から眺めた時の様子が予想外に面白いと完成した際に感じていた。一方で、塊(抽象形態)の部分に必然性がなく、ぼやけた印象がある点は課

題として残った。そのため今回壁面展示の話がきた際に、作品を真横から鑑賞できるのであれば、これまでとは異なる視点で作品を鑑賞者に見せることができる気付き、鑑賞者が正面から見た際の視点や、壁に展示した時に生まれる上下の感覚を意識した作品を制作したいと考えるに至ったのである。



図3：ラフスケッチ

3. 《BODY21-1》制作

本作品は主に以下の工程によって制作された。

- a) ラフスケッチの制作
- b) マケット制作
- c) 発泡スチロールによる原型制作
- d) 乾漆技法を用いた漆皮膜の形成

ここで最も重要なのは図3に示すラフスケッチである。ラフスケッチは、表現したいイメージを固める上で重要な作業である。図3左は初期のラフスケッチの1つであるが、この段階で既に何か大切なものを抱え込みながら、一方で切実な感情を内包した人間のイメージが完成してきたと言える。また、図3右に示すその後のラフスケッチでは、より緊迫した感情を表現すべく、脚の曲げ方やつま先の重なり具合、角度などを調整した他、肩を窄めることで外界を恐れながらも緊張感を持った様子を滲ませた。

発泡スチロールを使った原型制作では、従来作品同様に脚の部分のリアリティーを追求し、つま先の先端に至るまで表現したいイメージを込めていくことを意識した。図4は完成した原型の様子である。

最後の乾漆技法の工程では、下地として麻布を4枚、地を3回、錆を3回行い、その後、黒呂色漆と研ぎの工程を表面の凹凸が十分になくなるまで繰り返した後、艶上げを行った。



図4：発泡スチロールの原型

4. 制作を終えて

制作を終えたのち、制作者である私は、本作品の最初の鑑賞者となる。漆の艶上げが成された本作品（図1）に改めて向き合うことで、新たな発見が生まれてくる。本作品との対峙では、作品で表現したかったイメージがより具体的かつ鮮明な姿となって私の中に飛び込んできた。それは、多くの情報が氾濫する現代社会の中で生きる人間の姿であり、情報の海の中で、自分自身を見失いそうになる人の姿であった。その人間は暗い殻の中に閉じこもりながらも社会と向き合い、自分の心を大切に抱きながら自分自身とも必死に向き合っている人の姿であった。また、漆黒の艶が生み出すその姿は宇宙や生命の神秘といった何か大きな存在との繋がりを彷彿

させ、まるで茫漠な暗い海の中に深く潜り込んでいくかのような不思議な感覚を与えてくれた。そしてそれは、胎児を宿し守る強い母性を形にした姿とも捉えることができた。

5. おわりに

本項では最新作である《BODY21-1》の制作を通じた新たな造形表現探究の経緯と結果を報告した。現代の人間像を壁展示にて表現することは自身にとっては新たな挑戦であったが、鑑賞者に対して、これまで見せられなかった視点で人間像を表現し、具現化する事ができた。一方で、壁際が平らにならざるを得ない点が立体表現として課題があるように感じており、床に設置する場合も含めた表現の更なる探究が今後の課題であると感じている。最後に、最新の展覧会活動状況を参考資料として記載する。

（あおき・ちえ 漆・木工）
（2021年11月5日 受理）

○「北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI」

会期：2021年9月10日～10月24日

場所：勝興寺（富山県高岡市）

主催：北陸工芸プラットフォーム実行委員会、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

出品作品：《BODY 17-1》、《BODY 18-2》（計2点）



Photo : Masahiro Katano

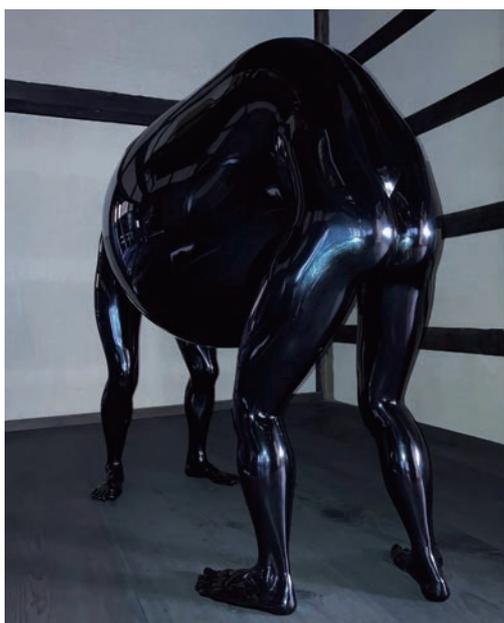


Photo : Masahiro Katano

○「特別展 フェミニズムズ / FEMINISMS」

会期：2021年10月16日～2022年3月13日

場所：金沢21世紀美術館 展示室11.12.14

主催：金沢21世紀美術館

出品作品：《BODY 16-1》, 《BODY 19-1》, 《BODY 20-1》, 《BODY 21-2》(計4点)



撮影：木奥恵三 画像提供：金沢21世紀美術館